

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関
株主名簿管理人
事務取扱場所
(郵便物送付先)

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)
(インターネット
ホームページURL)

☎ 0120-176-417

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

単元株式数
公告方法

100株

電子公告の方法により行います。

(当社ホームページURL <http://www.manac-inc.co.jp>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合、日本経済新聞に掲載する方法で行います。

上場証券取引所

東京証券取引所 市場第二部



マナック株式会社

〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地

☎ 084-954-3330 ☎ 084-957-4370

<http://www.manac-inc.co.jp/>

マナックは、化学をベースに、技術と知識の融合により
先端技術産業が求める機能を開発・提供する

研究開発型モノづくり会社です。



第66期中間のご報告

株主通信

2010年4月1日▶2010年9月30日

マナック株式会社

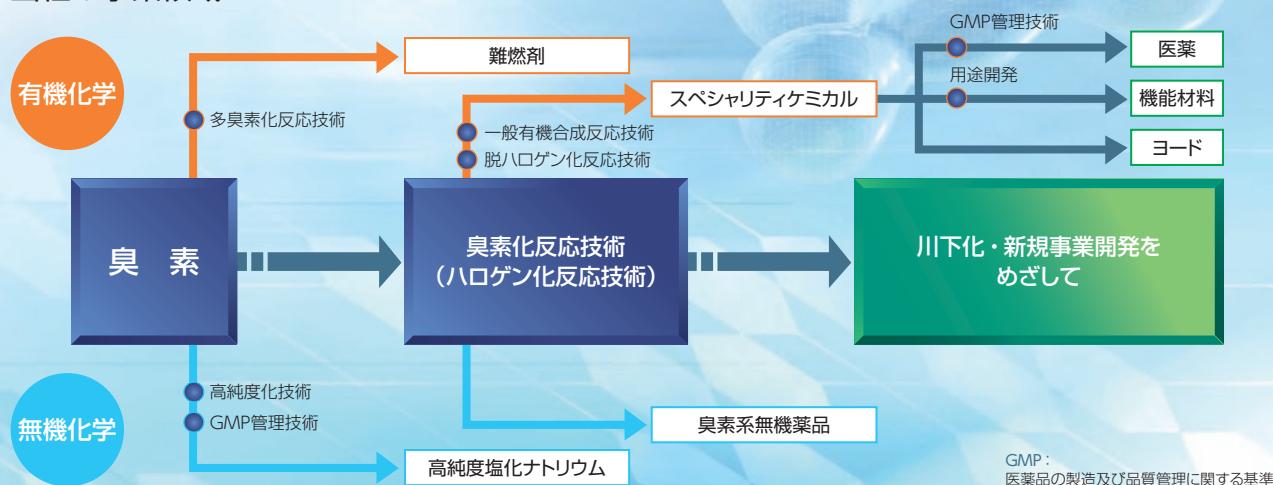
証券コード: 4364

スペシャリティケミカルをベースに 社会の進化・発展に貢献する

～進化する技術、そして進化する人間をめざして～

スペシャリティケミカルとは、電子・情報・医療といった先端技術産業が求めるニーズ機能を、化学技術を基にして提供する「機能性化学品」をいいます。当社は、求められる化学品を単に受託製造するのではなく、それらに関連した情報を組み合わせることにより、オリジナリティーのある製品を提供し、世界への貢献を行います。

○ 当社の事業領域



○ 各事業の戦略

難燃剤事業 長年にわたって蓄積してきた開発技術、製造技術を駆使し、お客様の信頼に応え、市場の拡大をめざします。	機能材料事業 強化した生産・開発体制を駆使して、新たな機能材料の開発・供給を本格軌道に乗せ、マナックブランドと高付加価値を追求します。	ヨード事業 柱となる製品群の拡大と新規製品開発により、国内市場・海外市場のシェアアップをめざします。	ヘルスサポート事業 健康支援ビジネスの構築を推進し、川下製品の開発、事業化をめざします。
	医薬事業 原薬製造プラント及び新機能開発設備の導入、更には新規開発品の拡大・企業化を視野に入れながら、自社技術の開発・充実に推進します。	SC・グループ会社 連結子会社である八幸通商株式会社、南京八幸薬業科技有限公司を中心に、生産、販売に関するアライアンス戦略を進めます。	

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第66期第2四半期連結累計期間（中間期）の株主通信をお届けするにあたり、皆様の日頃のご支援とご協力に対しまして厚く御礼申し上げます。

当上半期の当社を取り巻く経営環境は、アジア新興国の経済成長に伴い緩やかな需要回復傾向から持ち直しの動きがありましたが、一方円高などにより、引続き厳しい事業環境でありました。

当社グループは、急激な需要構造の変化に対応するため、新しい時代に向けた「新たな技術立社のマナック」を模索して、新規マーケットの開拓や研究開発、生産工程などの見直しによる事業基盤の再構築を推進しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間（中間期）の売上高は4,751百万円、経常利益132百万円、四半期純利益92百万円となりました。

第3、第4四半期の業績は、大幅な売上増加は見込



代表取締役社長 杉之原 祥二

めず、引続き厳しい状況が続くと予測しておりますが、お客様に密着し、市場の変化を読み取り、マーケティングに基づいた事業の推進を行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともマナックグループの事業活動にご理解を賜り、さらなるご指導・ご支援を頂戴出来ますようお願い申し上げます。

「新たな技術立社のマナック」の骨格を構築 マーケティングに基づいた事業の取組を進めます。

Q 前中間期と比較して当中間期の業績は好転しましたが、その主な要因を説明願います。

A 当社は、急激な需要構造の変化へ対応するため、一昨年より福山工場の「構造改革運動」によるコストダウンの徹底を図ってまいりました。社員が知恵や工夫を凝らし、生産性向上やコストダウン効果創出のため革新的な手法を取引先に提案することにより原料の変更や製造工程、製造方法の見直しを行った結果が、収益面での改善に繋がってまいりました。また、売上高の増加が見込めない中で、価格競争に走ることなく、いかに利益を確保するかに重点をおいた営業活動を行ってまいりました。

当中間期は、受注が、従前の水準には戻ってはいないものの、緩やかな需要の回復により、前年を上回る結果となり、前年比較では、27百万円の損失が92百万円の利益計上となりました。

Q 当期重点施策の一つである「高付加価値製品の提供による高収益体質の構築」について進捗状況をお聞かせ下さい。

A 当社は、研究開発型企業として、顧客ニーズの深掘りをし、それに応える開発力・技術力によって信頼を獲得してまいりました。しかし、コスト重視の観点から安価な海外製品の調達や競合他社との競争により、収益環境は一層厳しい状況となっております。一方当社は新製品により大きく売上高を拡大する企業ではありません。マーケティングによる顧客ニーズにあった高付加価値製品を差別化された独自の技術で創出して、ニッチの世界をターゲットとしております。その一つひとつを積み重ねて強い高収益体質の企業への変革を目指しております。研究開発は、電子部品材料、医薬中間体、環境対応関連製品などを対象に行っておりますが、これらが製品化に結びつくには早くも3～5年の時間を要します。また、

取引先のニーズも刻々と変わってまいります。したがってフレキシブル且つ粘り強い対応を行っております。

Q 構造改革運動として、福山工場ではどのような取組を推進していますか。

A 当社の製品製造工程は複数回にわたることから、その工程に無駄はないか、その製造方法、管理方法は適切かどうかを継続的に見直しを行っております。たとえば収率の向上を意図して実験を繰り返す行い、それを生産技術としてコストダウンにつなげるなどの活動です。当社の利益製品がいつ他の製品や外国品にとってかわられるかわかりません。高品質で競争力を持った製品を安定して製造する取組を行っております。

Q 下半期の主要施策・計画ならびに業績の見通しをお聞かせ下さい。

A 上半期後半より15年振りの円高水準が定着し、下半期の不透明感は一層増して景況感が悪化している経済状況下ではありますが、通期の業績見通しに関しましては、

当初開示通り連結当期純利益170百万円を計画しております。当社としては、新しい時代に向けた「新たな技術立社のマナック」を模索し骨格を構築するとともに、お客様に密着して、市場の変化を読み取り、マーケティングに基づいた事業の取組を進めることにより、新たな成長戦略を描く方針としております。株主の皆様には長期的な視野に立ち、当社の事業活動にご期待下さいませようよろしくお願い申し上げます。



難燃剤事業

主な特徴・用途

高耐熱性、耐候性、精密部品に対応し優れた高機能難燃剤を開発、提供しております。

主な用途として、テレビ、ビデオ、オーディオ機器などの家電製品を中心に、近年では、パソコン、携帯電話などのIT関連機器、自動車などに用いられるプラスチックに添加されております。

当中間期の概況

家電製品やIT関連製品のプラスチック分野に使われる材料が、景気の回復により前年同期を上回る需要となり、需要に応じた生産体制が続いていることから順調に推移致しました。

その結果、同事業の売上高は1,580百万円となりました。



ファインケミカル事業

<機能材料事業>

主な特徴・用途

パソコン、携帯電話、デジタルカメラなどのメモリーやIC素子の周辺材料、半導体の絶縁膜、コート材などに使用する機能性材料、電子材料などの化学素材を開発製造しております。

耐熱性や絶縁性に優れた特性を活かし、航空宇宙関連やその他の分野に積極的に用途開発を行っております。

当中間期の概況

家電・IT需要の冷え込みにより、半導体や電子精密機器などのハイテク分野において需要が低迷しておりました。当中間期は、需要については難燃剤事業と同様に回復基調となったものの、厳しい販売状況が引き続きました。

その結果、同事業の売上高は309百万円となりました。



<医薬事業>

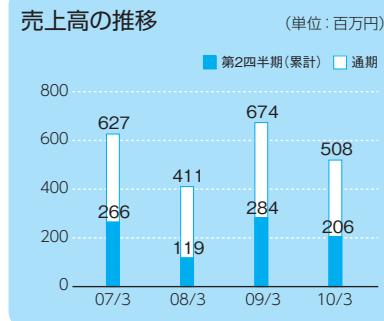
主な特徴・用途

多数の製薬メーカーの依頼を受けて原薬・中間体の共同開発や原料の供給を行っております。中間体から最終原薬までの受託が可能な製造体制、充実した設備、品質管理体制を整え、事業拡大に向けた体制が整備されております。

当中間期の概況

研究開発と営業活動に積極的に取り組んだことにより、医薬品関連製品の販売状況は景気に大きくは影響されず、堅調に推移いたしました。

その結果、同事業の売上高は210百万円となりました。



<ヨード事業>

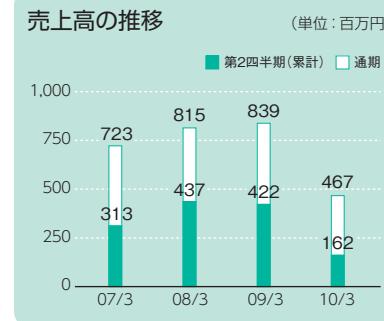
主な特徴・用途

ヨウ素の有機化合物を中心に開発・製造・販売を行っております。ヨウ素は、造影剤、殺菌、医薬品、電子材料、写真薬など非常に幅広い分野で利用されております。当社は複写機・プリンターに使用される中間体を中心に供給しております。

当中間期の概況

前年下半期より複写機用途の需要が低迷しておりましたが、当中間期は、需要が一部回復し、前年同期を上回る販売状況となりました。

その結果、同事業の売上高は440百万円となりました。



スペシャルティケミカル

<SC・グループ会社>

主な特徴・用途

近年デジタル化の急速な進展に伴い必要とされる素材の切り替わりがめまぐるしい、写真、感光剤、情報記録材料、電子材料分野に、当社に蓄積された技術で高付加価値製品を提供しています。また、連結子会社である八幸通商株式会社、南京八幸薬業科技有限公司とともに、戦略的アライアンスを進めております。

当中間期の概況

業界全体での在庫調整が一段落し、当中間期は需要が一部回復したため、前年同期を上回る販売状況となりました。

その結果、同事業の売上高は単体で303百万円、連結で1,631百万円となりました。



ヘルスサポート事業

主な特徴・用途

海水成分を活用した当社発祥の事業であります。製品としては、日本薬局方規格・日本工業規格に適合した塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化マグネシウム等を生産しております。用途としては、人工透析液原料及び試薬剤、食品添加物など医療・食品分野で使用されております。

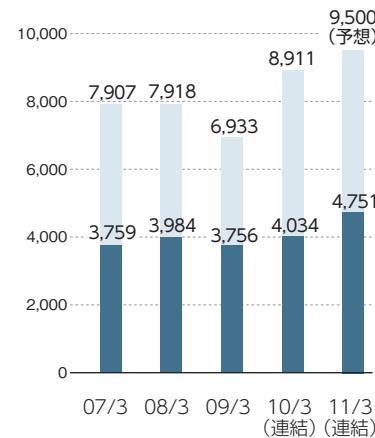
当中間期の概況

需要は横ばいで推移しているものの、ユーザーの生産調整などがあり、当中間期はやや厳しい販売状況となりました。

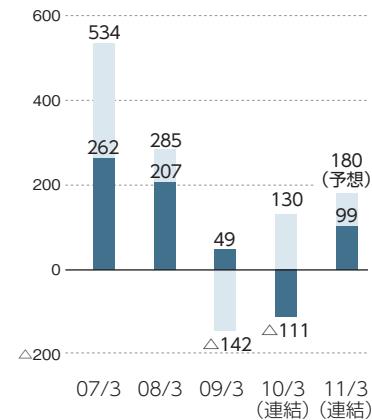
その結果、同事業の売上高は579百万円となりました。



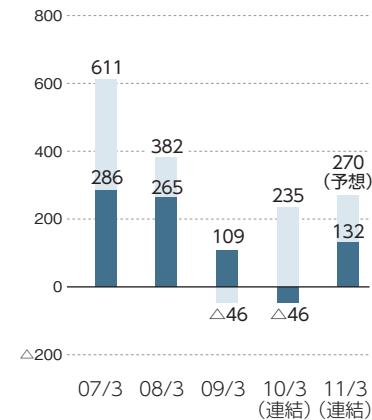
売上高 (単位: 百万円)



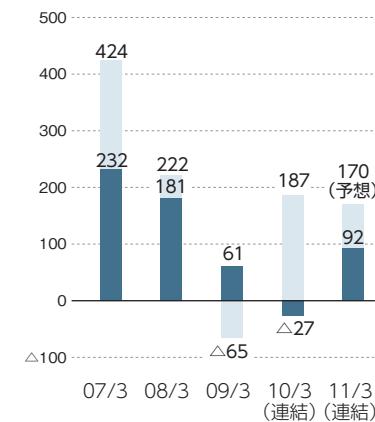
営業利益 (単位: 百万円)



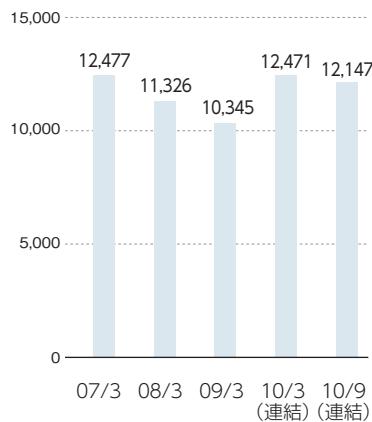
経常利益 (単位: 百万円)



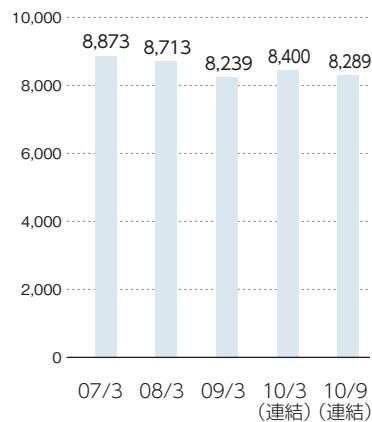
四半期(当期)純利益 (単位: 百万円)



総資産 (単位: 百万円)



純資産 (単位: 百万円)



● 2010年3月期より連結決算になっております。2009年3月期以前の単純比較はできません。

● △印は損失を示しております。

■ 第2四半期(累計) □ 通期

四半期連結貸借対照表(要旨) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
<資産の部>		
流動資産	7,937	7,972
固定資産	4,209	4,498
有形固定資産	3,035	3,219
無形固定資産	5	6
投資その他の資産	1,168	1,272
資産合計	12,147	12,471
<負債の部>		
流動負債	2,957	3,026
固定負債	899	1,044
負債合計	3,857	4,071
<純資産の部>		
株主資本	8,466	8,415
資本金	1,757	1,757
資本剰余金	1,947	1,947
利益剰余金	5,004	4,953
自己株式	△ 243	△ 243
評価・換算差額等	△ 176	△ 15
純資産合計	8,289	8,400
負債純資産合計	12,147	12,471

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2010年4月 1日から 2010年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2009年4月 1日から 2009年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	479	443
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 568	137
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 326	68
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11	0
現金及び現金同等物の増減額	△ 426	650
現金及び現金同等物の期首残高	1,881	1,877
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,454	2,527

四半期連結損益計算書(要旨) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2010年4月 1日から 2010年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2009年4月 1日から 2009年9月30日まで
売上高	4,751	4,034
売上原価	3,835	3,377
売上総利益	915	656
販売費及び一般管理費	815	768
営業利益	99	△ 111
営業外収益	79	81
営業外費用	46	16
経常利益	132	△ 46
特別利益	2	18
特別損失	1	3
税金等調整前四半期純利益	133	△ 30
法人税、住民税及び事業税	63	7
法人税等調整額	△ 22	△ 10
四半期純利益	92	△ 27

△印は損失を示しております。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは479百万円の収入となりました。これは、主に売上債権が減少したことによるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは568百万円の減少となりました。これは、主に金銭の信託の取得によるものであります。財務活動によるキャッシュ・フローは326百万円の減少となりました。これは、主に借入れの返済を行ったことによるものであります。この結果、当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、期首と比較して426百万円減少し、1,454百万円となりました。

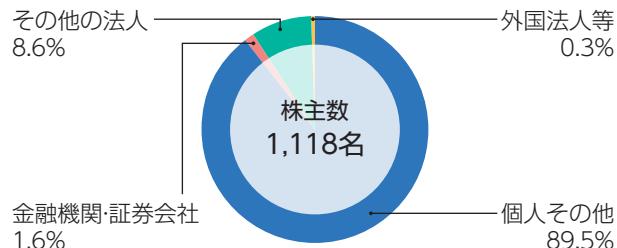
株式の状況 (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数 23,200,000株
 発行済株式の総数 8,625,000株
 株主数 1,118名
 大株主

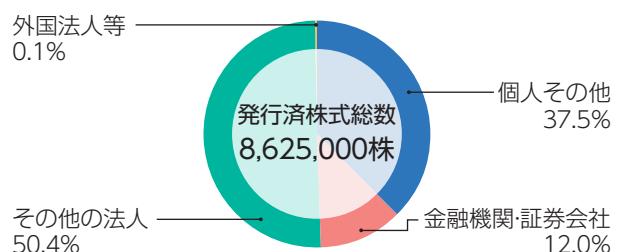
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー株式会社	1,608	20.0
財団法人松永育英奨学会	916	11.4
三菱製紙販売株式会社	607	7.6
株式会社広島銀行	322	4.0
杉之原 祥二	267	3.3
マナック社員持株会	219	2.7
合同資源産業株式会社	200	2.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	153	1.9
日本生命保険相互会社	148	1.8
中尾薬品株式会社	101	1.3

(注) 1. 上記のほか、当社保有の自己株式が589千株あります。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主数別分布状況



株式数別分布状況



配当関連情報

当社の株主還元方針

利益配分につきましては、長期的観点から事業収益の拡大と株主資本純利益率の向上を図るとともに、自己資本の充実と財務体質強化、株主の皆様への長期的、安定的な配当水準の維持に努めながら、利益配当額を決定していく予定です。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

第66期中間期の配当金

第66期の中間配当金につきましては、1株当たり2円50銭とすることに決定いたしました。第66期の年間配当につきましては、期末配当金として予定している5円を加え、7円50銭を予定しております。内部留保資金につきましては、お客様のニーズに応える新製品・新技術の開発のために常に必要な投資ができるよう備えてまいり所存であります。

会社概要 (2010年9月30日現在)

社名 マナック株式会社
MANAC INCORPORATED

本社所在地 〒721-0956
 広島県福山市箕沖町92番地

設立 1948年(昭和23年)5月

資本金 17億5,750万円

従業員数 188名(グループ従業員数341名)

事業内容 難燃剤、医薬品、食品添加物、写真感光材料、高機能性材料、電子材料、染料、香料など様々な分野の先端技術産業に原材料を供給

主な事業所

本社 〒721-0956
 広島県福山市箕沖町92番地
 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-957-4370

東京支社 〒103-0027
 東京都中央区日本橋3丁目8番4号
 日本橋さくら通りビル6階
 TEL: 03-3242-2561 FAX: 03-3242-2564

大阪営業所 〒541-0045
 大阪府中央区道修町1丁目4番6号
 ミフネ道修町ビル8階
 TEL: 06-6205-6771 FAX: 06-6227-5978

福山工場 〒721-0956
 広島県福山市箕沖町92番地
 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-953-8523

郷分事業所 〒720-0093
 広島県福山市郷分町950番地の1
 TEL: 084-951-2501 FAX: 084-951-2502

役員 (2010年9月30日現在)

代表取締役社長 杉之原 祥二
 代表取締役専務 三道 克己
 常務取締役 村田 耕也
 取締役 北村 彰秀
 取締役 門脇 進
 取締役 大久保 俊司
 常勤監査役 石井 潔
 監査役 内海 康仁
 監査役 本田 祐二

(注) 1. 取締役 門脇 進氏及び大久保俊司氏は、社外取締役であります。
 2. 監査役 内海康仁氏及び本田祐二氏は、社外監査役であります。

子会社

社名 **八幸通商株式会社**
 [100%出資子会社で南京**八幸薬業科技有限公司**(中国・南京市)も連結子会社としております。]

本社 〒103-0025
 東京都中央区日本橋茅場町二丁目7番6号
 晴花ビル3階

事業内容 化学薬品の製造、販売

社名 **エムシーサービス株式会社**

本社 〒721-0956
 広島県福山市箕沖町92番地

事業内容 事務・物流業務の受託

関連会社

社名 **ヨード・ファインケム株式会社**

本社 〒104-0031
 東京都中央区京橋二丁目12番6号
 東信商事ビル7階

事業内容 ヨード化合物の製造、販売